



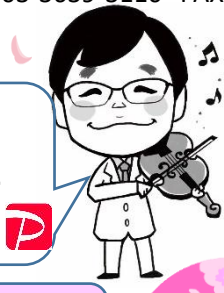
住所:東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

## 2021年4月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

- 1. 内科・生活習慣病
- 2. 心臓病・糖尿病
- 3. 睡眠時無呼吸症
- 4. 土曜日診療
- 5. 発熱外来

- ・ワクチンしばらくお待ちください
- ・健診はじまります
- ・PayPay導入予定



ホームページ  
院長ブログ公開中

■ 休診日   
 ■ 午後休診   
 ■ 18時最終受付

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

**「今月の言葉」**  
 どんな冬もいつか終わる  
 そして、春は必ずやって来る  
 (ハル・ポーランド)



**お知らせ**  
 18日(木) 18時最終受付

**<発熱外来>**  
**電話でのみ予約を受け付けます**  
**非常階段からのご案内となります**  
 ・時間 12:00~13:00、15:30~16:00  
 <受診の目安>  
 ①37.5℃以上の発熱②咳やくしゃみ  
 ③インフル・新型コロナが心配の方

さいとう内科・循環器クリニック @237gsvtx  
**LINE公式アカウント**



**新学期に向けて**

4月、新年度がスタートしました。4月といえば入学式の季節ですね。我が家は、子供達は学年が上がるだけで、そのほか大きく何かが変わることはありませんが、皆さんのなかにはこれから始まる新しい学校生活やお仕事を前に、喜びと希望で胸がいっぱいの方も多くいらっしゃることでしょう。その一方、残念ながら希望していた進学先や長年夢見ていた仕事に就くことが叶わなかった方も少なからずいらっしゃるのではないかと思います。私は人生は思いどおりにいかないことのほうが多いとさえ思っています。

私事で恐縮ですが、今から遡ること30年以上前の高3の冬、私は見事に大学入試に失敗し、県内の高校を卒業後、浪人生活を送るはめになりました。高校時代はそれなりに楽しく過ごしましたが、部活動は1年生で途中退部、その後とくに一生懸命勉強することもなく、だらだらと過ごしたため、自業自得というか浪人して当然という状況でした。そんな自分と対照的に、部活動に3年生の最後まで打ち込み、学校行事にも積極的に取り組みながらも難関大学に現役で合格、進学していった同級生たちの姿は大変まぶしく、不甲斐ない自分がとてもみじめで恥ずかしく思ったものです。

さて、4月からは東京にある某Sという予備校に通い、大勢の浪人生とともにドキドキしながら授業を受けることになりました。予備校という追い詰められた受験生と、叱咤激励する予備校教師の息が詰まるような授業が展開されると勝手に想像していたのですが、実態は全く違っていました。予備校の講師の多くは、名門大学の教師であったり大学院生であったりとかかなりアカデミックで、彼らの授業も知識を詰め込むというよりも学問の本質的な部分を教えようという意欲にあふれていました。

なかでも特に印象的だったのが、物理の山本義隆先生です。ご存知の方も多いかもしれませんが、山本義隆先生は元東大共闘議長で学生運動の象徴的な人物です。山本先生は当時の私にとっては、ちょうど親世代の方でしたので、全共闘の議長として活躍した時代のことは全く知りませんでした。最初に教室に姿を現したときには、髭を生やした妙にオーラのある先生が眼光鋭く教室をぐるりと見渡す姿に「ちょっと変なおじさんがやって来た、大丈夫か」と思ったものです。

しかしその山本先生の授業は物理学の本質を丁寧に説明する大変興味深いもので、初めて「物理学って面白い!!」と感じたものです。その感動を(大学の物理学の教師であった)父親に伝えたところ、父が「山本先生はとても優秀な先生だったからね」というのを聞いて、(そんな優秀だった先生が予備校の教師をしているなんて、何だかもったいない、先生も学生運動なんてしなければ良かったのに)、と思ったものです。山本先生は授業中に政治的な話はほとんどしませんが、科学史について調べているという話をされていたことがありました。

10年前くらいにふと、山本先生どうしているのかな?と思って調べたことがありました。すると「磁力と重力の発見」という大作(全3巻)が発行されていて、その作品が様々な賞を受賞していることが分かりました。山本先生はその後も科学史関連の多くの著作を残しており、科学史における「知の巨人」というべき存在であることが分かりました。私もさっそく「磁力と重力の発見」1巻を購入して読み始めましたが、私には難解すぎて内容が理解できませんでした。ただ、それが大変な力作であることは素人の私にも十分に理解できました。

将来を嘱望されていた優秀な研究者が、アカデミックな世界から離れるということは一見すると敗北者?のようにも見えますが、大学を離れてからも自分の置かれた環境で勤勉に働き、執筆ははじめ多くの業績を残しており、その政治的な主張については賛否両論あるところかもしれませんが、私は大変尊敬しています。浪人時代は親には大変な負担と心配をかけました(自分が親になってそれを痛感します...)でも浪人生活がなければ山本先生のような先生に出会うこともなかったと思いますし、このまわり道は決して無駄ではなかったとおもいます。

まわりをみて思うことですが、希望していた道へ進めなかったとしても、人生の不運を嘆いて拗ねたり、ふてくされるのはかっこわるいと思います。たとえ不本意であったとしても、自分に与えられた場所で一生懸命に力を尽くす、全力で生きる、そこに道は必ず開けていくと信じています。

新年度、心あらたに頑張りましょう!

文責 齋藤幹